

地域・学校の活性化への取組

～学校が核となった地方創生へのチャレンジ～

【光市 浅江中学校区】

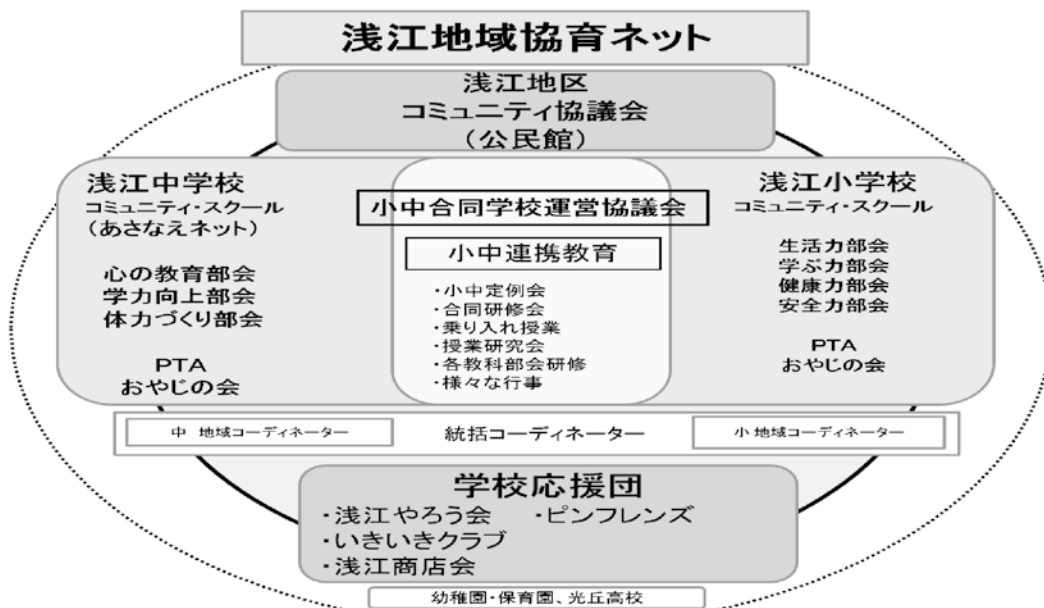
地域の概要

浅江地域は、日本の名松 100 選白砂青松の虹ヶ浜をはじめとする豊かな自然と、光市内最大人口の住宅地域と大型ショッピングセンターを含む商業地域を有する地域です。浅江公民館を拠点とした浅江地区コミュニティ協議会の活動、小学校及び中学校のコミュニティ・スクール（以降CSとする）の運営等が融合し、様々な活動を行っています。このことによって、地域で児童生徒が、学校で地域の方が生き生きと活躍する姿が頻繁に見られるなど、学校と地域の絆がより深まっており、地域と学校が Win-Win の関係で、お互いに欠くことのできない存在になっています。

人口	15,001 人	
世帯数	6,684 世帯	
対象校及び児童生徒数	浅江小学校	764 人
	浅江中学校	369 人

組織の内容

浅江中学校区では、浅江小CSと浅江中CSの連携組織を核として、そこに浅江地区コミュニティ協議会をはじめとする様々な地域をけん引する団体が有機的につながり、地域全体で児童生徒の育ちを支援しています。



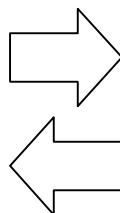
特色・重点的な取組

○ 児童生徒を地域ぐるみで育てるための取組「浅江小中拡大学校運営協議会」

浅江小中のCS委員・教職員・保護者代表と地域の関係者が集まり、浅江地域の児童生徒について話し合う「浅江小中拡大学校運営協議会」を年1回開催しています。平成27年度は、めざす「15歳の浅江っ子像」とそのための方策について熟議しました。多くの参加者から、地域を愛し、地域を担うことのできる子どもに育ててほしいという強い願いが聞かれました。

めざす「15歳の浅江っ子像」

- ふるさと・自分・人が大好きな子ども
- 自分に自信がもてる子ども
- 地域が好きで語れる子ども
- 地域の担い手として考えられる子ども
- つながり、ふれあう子ども など



そのための方策

- 名前を言って挨拶、言葉がけ
- 大人が手本となる
- 保護者が地域を大好きに
- 挨拶+1の声かけ
- 地域で子どもが役立つ場をつくる
- 浅江大祭りをつくる など

主な活動の紹介

● 小中合同協議会（あさなえネット協議会）

小・中それぞれの運営協議会委員及びコーディネーターが、本会において、各々の立場から三つの視点をもって運営方針を検討しています。

視点1 本年度の成果と課題

視点2 協働のよさと可能性の確認

視点3 次年度に向けた「地域協育ネット」の方針の確認

各組織の活動の価値を確認し合い、「協働することにより効果を増幅できるか」「それぞれ組織別の活動で独自性を尊重するか」を熟議し、次年度のネット機能を更新していきます。



● ふれあい絵画教室（学校外からのアプローチ）

C S 2年次に入り、学校外からの活動提案が来るようになりました。隣接する高校の美術部員から、「夏休み絵画教室」で小学生の相談、支援をする活動の申出があり、配色や混色の助言を受けました。同じく隣接する専門学校の幼児教育課程の生徒から、実習をきっかけに週1支援ボランティアの申出が、紙芝居サークルからは「ふらっと紙芝居」と題して校地内での月1上演希望があり、実現しています。どちらもWin-Winの姿が見られ、地域協育ネット効果が表れています。



● 15歳は地域の担い手

「あさなえ Jr.」活動として、中学生の地域貢献活動にも力を入れています。

総合的な学習の時間に、光市の強みと弱みを整理し、地域住民と意見交換をしました。地域の今と向き合い、未来を真剣に考えるリアリティのある学習を通して、地域の担い手としての熱い思いと行動力が芽生えてきました。

「高齢者への弁当配達」により、お年寄りの一人暮らしの現状と向き合い、災害時の課題に気付いたり、「虹ヶ浜松林清掃ボランティア」活動を通して、先人の功績や専門家の知恵に学び、地域の宝である豊かな自然の未来に向けて愛着を深めたりするなど、社会へ参画する力が育まれています。



成果と課題

小学校及び中学校のC S、公民館を主体とする地区コミュニティ協議会がそれぞれの独自性を発揮しながら協働することにより、依頼型（アプローチ型）の活動だけでなく提案型（セールス型）の活動が創造され始め、Win-Winの関係を今まで以上に実感できるようになりました。

また、PTA活動においても小・中各組織間で、お互いを補完し合う互助、共に手を携え協力し合う共助の機運が起こり、連携の動きができてつつあります。

そうした中で、子どもたちの中には、地域や学校が、これから向かうべき方向性について、自分の言葉で語り始める児童生徒も出てきました。少子高齢化や人口減少など、これから厳しい問題と直面する社会の中で、たくましく生き抜き、また、他者と協働しながら、ふるさとを支えていくための土台となる意識や態度が少しずつ身に付いてきているように感じています。

今後、それぞれの組織、関係機関やサークル・団体の主体性や独自性を尊重しつつも、「地域協育ネット」の細部に渡るつながりの可能性を探っていく必要があると考えます。

今後の取組

コミュニティ・スクールとしても小中連携が進む中、PTA等の組織を取り込んだ二つのコミュニティ・スクールの連携体制を充実させ、「浅江中学校区地域協育ネット」としての仕組みの再構築を検討していきたいと考えています。